

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回弘前市スポーツ推進審議会
開 催 年 月 日	令和5年9月27日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分 から 15時20分まで
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	【議長(会長)】 田澤 昭次郎 公益財団法人弘前市スポーツ協会副会長
出 席 者	【学識経験者】 田澤 昭次郎 公益財団法人弘前市スポーツ協会副会長 福田 由理子 弘前市スポーツ推進委員 小山内 修 弘前市スポーツ少年団本部長 木村 宏 東奥日報社弘前支社長 鹿内 葵 青森県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 中嶋 実樹 青森県障害者スポーツ協会理事 對馬 大成 弘前大学教育学部附属特別支援学校教諭 【関係行政機関】 小笠原 恭史 弘前市立第三中学校長 對馬 匠 弘前市立石川小学校長 【公募委員】 上田 優人 西澤 雄貴
欠 席 者	渡邊 智 陸奥新報社取締役
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	佐伯 尚幸 健康こども部長 小山内 一仁 健康こども部スポーツ振興課長 若松 義人 健康こども部スポーツ振興課長補佐 平野 家隆 健康こども部スポーツ振興課主幹 佐々木 愛美 健康こども部スポーツ振興課主事 川村 拓 健康こども部スポーツ振興課主事
会 議 の 議 題	・弘前市スポーツ推進計画の事業評価について(諮問事項)
会 議 結 果	事務局案で委員の承認を得た
会 議 資 料 の 名 称	・弘前市スポーツ推進計画 ・第2期 弘前市スポーツ推進計画 ・弘前市スポーツ推進計画 数値目標評価結果及び実績報告 ・児童のスポーツ活動に関するアンケート調査結果について

<p>会 議 内 容</p> <p>(発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)</p>	<p>(会議内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 会長あいさつ 4. 会議 5. 閉会 <p>《 1. 開会 》</p> <p>《 2. 委嘱状交付 》 (部長〈市長代理〉より4名へ委嘱状を交付)</p> <p>《 3. 会長挨拶 》</p> <p>《 4. 会議 》</p> <p>会 長：本日の議題は「弘前市スポーツ推進計画の事業評価について」。事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局：弘前市スポーツ推進計画の事業評価について説明</p> <p>会 長：数値目標についての評価、令和4年度の実績・評価について説明がありました。ただ今の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。</p> <p>委 員：今回は第1期推進計画の評価とのことだが、すでに第2期が今年4月から始まっている。審議会の結果を受けて、第2期の内容に修正が入ることはあるのか。</p> <p>事務局：修正が必要なものは適宜修正する。文言の修正がなくても、取組の運用方法によって意見を反映することもある。</p> <p>委 員：意見を聞いただけで終わることがないように、審議会での意見を反映して、より精度の高い計画にしてほしい。</p> <p>委 員：もし第3期計画を策定する計画があるのであれば、第2期計画の途中で評価を行うべきではないかと考え</p>
-------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

る。

会 長：切れ目なく計画を策定する必要があることから、第2期計画進行中に第1期計画の評価をすることになりますが、必要に応じて第2期計画の修正をするとの事務局の回答もあったので、委員の皆さんはぜひ忌憚のない意見をお聞かせください。では、資料の内容について意見や質問がある方はいませんか。

委 員：資料1の数値目標では△評価がついているなど、達成していない項目が多いが、資料3ではほとんどが○評価となっている。数値目標では2021・2022年と数値が大幅に減っている項目がある。コロナの影響で数値が伸びていないのであれば、その旨も記載すべきと考える。

会 長：数値が大幅に増減した内容で、理由がわかっているものについては、注釈等を入れたほうがわかりやすいとの意見でした。その他、ありますか。

委 員：資料1の補足について。「軽スポーツ」に注釈をつけた理由は何か。同じ質問でも注釈をつけた年度から急に数値が増えるということであれば、結果の一貫性が無いように感じる。

事務局：「軽スポーツではイメージがわからない」といった声が寄せられたほか、回答者によって「軽スポーツ」に対する認識のばらつきが見られたため、軽スポーツの具体例として「ストレッチやヨガなど」を追記した。

委 員：注釈をつけることで、より実態に即した調査結果が得られるのであれば、わかりやすい・答えやすいアンケートを目指して今後も工夫を続けてほしい。
2018年度から2021年度までの数値が軒並み25%を下回っており、働き盛り世代の運動不足は深刻な問題であると医療従事者として痛感している。十分な運動・食事・睡眠をすることで健康都市弘前の実現につながるため、運動する人の数値を高められるような取組に期待する。

会 長：そのほかにありますか。

委 員：資料3の17・18ページについて。地域スポーツコミッション設立に向けた取組が〇評価となっているが、設立に向けた具体的な動きはあるのか。

事務局：現在、設立委員会を組織するというよりも、市の事業であるスポーツ合宿の誘致などを通して、交流人口の拡大を図っている。

委 員：今後設立するのか、現状のまま進むのか。計画していることはあるか。

事務局：設立したいと思っている。2026年には本県で国スポ・障スポ開催も決まっているところである。ただ、官主導、民主導など設立方法にはさまざまあり、判断が難しいと感じている。長い目で見ると民主導の方が良いように思えるが、財政的な面で自走していけるのかなど、不安要素もあり模索している状況である。市で誘致しているスポーツ合宿の誘致も、いずれはスポーツコミッションで対応することが理想と考えている。

委 員：設立時期やタイミングなど、設立に向けた具体的な情報を適宜提供してほしい。

委 員：私からもスポーツコミッションについて。民主体であれば財政的に厳しいことは確か。他の自治体では、直営や業務委託、補助金などで支援している例などさまざま。プロ野球一軍戦誘致やスポーツ合宿の誘致など、現在の体制は行政主体に感じられる。中心となる部分は民間に任せて、行政は行政にしかできない取組を進めてほしい。弘前市のみならず、弘前圏域でスポーツコミッションを作れたらいいのでは。

事務局：他の市町村の事例も参考にしながら、設立検討の際には委員の皆さんの意見も取り入れていきたい。

会 長：そのほか、ありませんか。

委員：資料3の内部評価がほぼ○の中、一つだけ△が。社会
体育施設のバリアフリー化やユニバーサルデザイン
がどの程度進んでいるのか。

事務局：△評価としたのは障がい者スポーツへの参加につい
て。コロナ禍だったこともあり、さまざまな大会やイ
ベントが中止される中、達成できたと明言できる材料
が揃わなかったため△とした。また、バリアフリー化
については、多目的トイレの整備や施設の利用状況な
どを見ながら検討している。最近では岩木山百沢スキ
ー場にバリアフリートイレを設置した。そのほか、ト
イレの洋式化を進めている。国スポ・障スポに向けて、
利用環境の向上を目指して進めている。

委員：今年度の予定は？

事務局：運動公園陸上競技場に1番近いトイレの工事を今年
5月に終えたところである。

委員：施設のバリアフリー化について。先日、体育施設の職
員と会話をした際、「ユニバーサルデザインを積極的
に取り入れようと思う」とのコメントがあった。聞け
ば、昨年市主催で開催された研修会をきっかけに、よ
りユニバーサルデザインへの関心が高まったという。
研修会を開催して終わり、参加して終わりではなく、
次の行動につながっていく点が素晴らしいと感じた。
今後もそういう流れが続いてほしいと思う。
もう一つ。障がい者スポーツの観点から。第2期計画
の中に「共生社会」というワードがあるが、大きな枠
でありなかなか難しい部分だと捉えている。特別支援
学校との連携について、具体的にどのようなことを取
り組んでいくのか。

事務局：これまでの取組を継続するとともに、新しいアイデア
も出しながら進めていきたい。

委員：昨年度まで、スポーツ庁の委託事業ということで、特
別支援学校を中心に、軽スポーツをする機会を提供し

てきた。また今年度は、スポーツクラブで「地域の部活動」として特別支援学校の子どもたちがスポーツができる環境を整備してきたが、実際は1つの学校からの参加者しかいない状況である。どのように周知・普及を図っていくのかが計画内に盛り込まれていないので、具体的に記載するべきだと思う。

資料2の5ページ、障がい者スポーツへの参加促進について。各小・中学校への取り組みは行われているが、障がい者や特別支援学校への取り組みが見えてきていない。

委員：私の団体では、市の助成金を活用して障がい者スポーツ活動を行っているので、今後も支援を続けてもらいたい。行政に任せっきりにならず、民間も補助金などを活用して頑張っていきたい。小・中・高校では活動や情報があるが、卒業すると地域の活動情報は途切れてしまう。そこをどのように繋げていくかが課題である。

また、ハード面での整備は費用がかかる。ヨーロッパでは「心のバリアフリー」が進んでおり、いい傾向と思う。弘前市に限らず、車いすでの来場を嫌がる施設があったり、障がい者スポーツにとってハードルが高いと感じたりすることがある。

事務局：障がい者スポーツについては、我々も知識や情報が不足していると感じる。今後も意見をいただきながら進めていきたい。

委員：どのようにしたら障がい者スポーツが普及促進されるか、障がい者スポーツに関わる人口が増えるかを考えたときに、「役割分担」が重要だと考える。現在、実働部隊として特別支援学校やNPO法人が動いているが、情報発信については市（行政）にお手伝いいただきたい。そういった役割分担ができればいい連携ができるのではと感じた。

委員：相談支援事業所などの福祉関係の事業所に向けて、広く情報提供していただきたい。また、障がい者スポーツの拠点になるような場所があってもいいのでは。こ

の審議会にも、福祉関係の部署の職員が同席することも一つの方法かと思う。

会 長：障がい者スポーツの参加促進の点でお話いただきました。資料3の2ページにも課題として、「障がい者スポーツの現状を把握し、普及に取り組む必要がある」とありますし、委員の皆さんから、拠点の必要性や情報発信に関する意見がありました。ぜひ改善に向けて進めてほしいと思います。

そのほか障がい者スポーツに関連して、市民の「ボッチャ」への関心が高まっているように感じますが、いかがでしょうか。

委 員：ボッチャに関しては、小学校や町会からのスポーツ推進委員の派遣依頼が増えてきた。簡単な競技なので、ルール説明からゲームまで老若男女、楽しく交流しながら体験できている。スポーツ推進員の全国大会や国スポ・障スポへ向けて、推進委員としても普及に努めるほか、障がいの有無や年齢に関わらずスポーツを楽しむ環境づくりに、今後も協力していきたい。

会 長：そのほかにありますか。

委 員：児童のスポーツ環境の評価について。「アクセス」については特に大きな課題。今は学校単位でのスポ少や部活動の維持が難しくなっている。子どもたちがスポーツをやりたいと望んだ時にやれる環境作りができるよう、もっと厳しい視点で評価するべきでは。仕組みづくりという観点から、具体的なアクションを見せてほしい。

事務局：「活動場所に出向く」ということを主としてお話いただいているが、市として取り組んでいるのが、「地域でできる」ということ。子どもたちが移動に苦せずスポーツを楽しむためにどのようなことができるか、という視点も持って進めている。

委 員：あとは経済的な問題。スポーツをしたいけどお金がかかるのでできない、という声も聞いている。お金があ

る家庭の子だけがスポーツをできるという側面もあるので、相対的な貧困層に対する支援という視点も持って考えてほしい。

会 長：教育現場の委員の方、いかがでしょう。

委 員：教育現場にいる者として、子どもたちのスポーツ離れが進んでいると実感している。「スポーツをやりたくてもできない子」が議題に上がりがちだが、実際は「スポーツをやりたいと思わない子」も増えている。「やりたくてもやれない子がスポーツをできる環境」にすることと、(生涯スポーツの観点から)運動が苦手な子に「運動もいいもんだな」と思ってもらえるような取組はイコールではない。大人の中にも、小・中学校の体育の授業がきっかけでスポーツが苦手になった人がいる。やりたいと思っていない子にも「スポーツっていいもんだ」と思ってもらえるような「体育の授業の充実」を考えていきたい。

委 員：体育の授業はすごく大事。私の団体で指導者派遣を行っていた際、アンケートで「体育が好きになった」と回答してくれた子や、スポーツ少年団に加入した子がいた。学校現場だけに任せるのではなく、外部の指導者と連携するような事業があればいいと思う。スポーツに限らず合唱や吹奏楽などの文化活動についても、「触れる機会」をどう作るかを地域含めて考えていければ。

指導者の問題についても、ヨーロッパではスポーツ団体の指導者は仕事が早く終われる国があったりする。謝金の確保よりも、指導に回れる時間を確保してあげられる社会の仕組みづくりが大切だと感じている。

委 員：第2期計画9ページ「スポーツ団体に加入していない理由」として「意思がない」の割合が極端に増えているわけでないことに安心した。保護者の話を聞いていても、すぐに手に入って楽しめるインターネットやスマートフォンの普及により、スポーツ離れが進んでいるのではと思っていたが、数字には表れていないので意外だった。低学年の子どもたちにスポーツの習慣を

つけもらうために、学校でもいろいろな取組をしている。自分がスポーツに触れるには、周りのスポーツをやっている人に憧れるなどの条件がある。学校としては「いい経験・いい体験」ができるように模索していきたい。

会 長：資料1、スポーツ少年団に加入している子どもの割合については△評価となっており、クラブ活動などが増えたことで選択肢が多様になったため、と注釈があります。数値目標だけで言うと、○にはなかなかかないのかなという印象がありますが、いかがでしょうか。

委 員：数値そのものが目標であれば、当然「上がっていくこと」が正解になる。ただ、令和4年度に比べて今年度は「横ばい」の状況。数値は数値で上げていくべきなのかと思うが、少子化の度合いと加入率の度合いもあるため、子どもが減っていくのにも関わらず加入率は横ばいなのはいいことなのか、というような議論も必要になる。この現実を支えていただいているのが、指導者であり保護者である。スポ少に関わらず、いろいろな形で活動している。スポ少も学校を越えた児童で組織されており、活動場所への送迎が負担となっている。指導者や保護者を支えることで、子どもたちのスポーツ活動を支えていけるように各所と連携していきたい。

会 長：児童のスポーツ環境に関連してスポーツ少年団についてお話いただきました。そのほか、委員からなにかありませんか。

委 員：学校開放や廃校の利用についてどのような状況か。検討事項はあるか。体育施設も古いところが多く、学校や廃校の利活用が必要だと感じる。ほかの自治体は、システムでの一括管理が行われているところも。学校の負担を減らし、地域の人が自由に使えるような活用方法を考えていきたい。

	<p>会 長：スポーツ環境の整備の観点で、学校の有効利用についての意見がありました。</p> <p>事務局：教育委員会と情報共有しながら、検討を進めたい。</p> <p>会 長：本日の諮問内容について、異議などありませんか。</p> <p>（委 員：異議なし。）</p> <p>会 長：評価については異議なしとのことですが、さまざま問題提起があり、課題も見つかりました。次期計画への参考にするなど、審議会での意見を活用してください。事務局からなにかありますか。</p> <p>事務局：今後のスケジュールについて説明。</p> <p>会 長：他に無いようですので、これをもちまして、本日の会議を閉会し、進行を事務局へお返しいたします。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>
<p>その他必要事項</p>	<p>会議は公開</p>